

（母子保健福祉委員会小児等在宅医療の推進部会）					
団体名	神奈川県医療課	小田原保健福祉事務所	アコモケア訪問看護ステーション	小田原市健康づくり課	箱根町（子育て支援課、福祉課）
課題区分	－	(1)関係機関とのネットワーク構築 (6)医療的ケアを必要とする在宅児の実態が不明	(1) 関係機関とのネットワーク構築	(1) 関係機関とのネットワーク構築	(1)関係機関とのネットワーク構築 (4) コーディネーターがいない
(1)項目・内容	小田原地域小児等在宅医療連絡会議の実施 「小田原地域の関係機関が地域の課題や取組みについて意見交換を行う」	1 ネットワーク 支援提供体制の具体的構築に向けた協議会の開催 ・母子保健福祉委員会において、保健・医療・福祉関係機関との支援体制づくりのための検討の場をつくる。 23 実態把握 小児医療ケアの状況把握調査 ・子ども医療センターの実数調査に加え、具体的な医療的ケアの状況把握の調査を行う。	1 ネットワーク 支援提供体制の具体的構築に向けた協議会の開催	1 ネットワーク ・行政、関係機関を含めたネットワーク会議の開催及び支援提供体制の具体的構築に向けた協議会の開催 3 ネットワーク ・役割分担の整理表の作成	1 ネットワーク ・行政、関係機関を含めたネットワーク会議や支援提供体制の具体的構築に向けた協議会の開催 16 コーディネート ・地域限定相談窓口の設置
(2) 29年度の進捗状況について、実績や検討している内容	・第1回小田原地域小児等在宅医療連絡会議の実施（29年10月6日） （議題1）小田原地域における平成29年度取組みの進捗状況について	1 ネットワーク 7/31母子保健福祉委員会小児等在宅医療の推進部会を開催し、療育実態状況調査(訪問調査)の報告やさらなる実態状況調査について取組みスケジュールや目的を共有した。また、グループワークを行い、多機関で連携して取り組むべき課題について検討し、共有した。(別紙1参照) 23 実態把握 当所が支援している医療的ケア児6名を対象に、生活状況の実態について家庭訪問による調査を行った。調査内容はまとめ、母子保健福祉委員会小児等在宅医療の推進部会で関係機関と共有した。(別紙2参照)	7月31日在宅における医療的ケア時の療育実態調査報告を受けて、他機関で連携して取り組むべき課題についてGWを実施 （小田原保健福祉事務所実施：平成29年度母子保健福祉委員会小児等在宅医療の推進部会）	小田原保健福祉事務所が開催した在宅医療推進部会に出席。保健福祉事務所が行った療育実態状況調査の報告を受けて、グループワークにて取り組むべき課題等抽出したため、それに基づき今後ネットワーク構築に必要な調査等を進めていく予定となっている。	・平成29年7月末に小田原福祉事務所主催の小児等在宅医療推進部会へ参画。今後、地域の体制づくりへの協力を継続して行う。 ・対象児を把握した場合、子育て支援課と福祉課が連携して今後の支援法を検討し、町の事業（訓練会）や医療機関等に繋げている。
(3) 取組みを進める中で見えてきた課題	・医療課による事務局運営は29年度に終了するため、30年度以降の運営体制をどのようにするとよいか。	①療育実態状況調査(訪問調査)から見えてきた課題（別紙2参照） ②地域で受け入れができない等の理由により、専門病院や大学病院等を退院できない児が、実際にどの程度いるのかが分からない。 ③0～3歳児までは、市町の乳幼児健診等により全数把握ができる可能性があるが、3歳児以降の児について量的把握をすることが難しい。	地域の実態が十分につかめているとは言い難いことが分かった。 実際の地域ニーズが見えてこない限り、具体的な解決策を導き出すのは難しいと考える。まず各地域でどれだけの在宅療養中の小児がいるのかをあぶりだす必要があると思う。いないという事実も貴重な資料であり、それぞれが自分たちの問題としてとらえることが必要ではないか。	実際グループワーク等を行ってみると、わかっていないことが多く、患者の把握や、全体的なサービスの把握、支援体制、情報共有の方法等話し合いながら、ネットワークの強化を図ることが必要だと感じた。	・各関係機関の役割の明確化 ・総合的な相談窓口の設置
(4) 課題に対する考えうる解決策または関係機関と話し合いたいこと	－	①今後、小児等在宅医療の推進部会メンバーで検討していく。 ②専門病院や大学病院等に対し、ヒアリングやアンケート調査を行う ③医療機関や訪問看護ステーション、療育施設等と協力し、個人情報に配慮した上でナンバリングする等工夫し、より実態に近い形となるよう調査を行う。	調査の継続と、今後も推進会議を開催すると聞いている。回を追うことでネットワークも自然構築され、情報も整理されていくと思う。 訪問看護としての課題はまだまだ解決できていないため、今後も課題に取り組んでいく。	小田原保健福祉事務所が音頭をとってくださり、推進部会も開催されたので、これを継続していただけとありがたいと思います。	各関係機関（小田原市、真鶴町、湯河原町、小田原保健福祉事務所、小田原市立病院、太陽の門、ほうあんふじ、あこもけあ等）と、小児在宅のための総合的な相談窓口設置実現に向けた話し合いを行い、役割を明確にしていきたい。

平成29年度取組み進捗状況一覧

団体名	小田原医師会（小児科医会）	小田原市立病院	小田原養護学校①	小田原養護学校②	湯河原町保健センター
課題区分	（１）関係機関とのネットワーク構築	－	（１）関係機関とのネットワーク構築	（５）福祉現場での医療従事者や医療的ケア対応可能な人材不足	（１）関係機関とのネットワーク構築
（１）項目・内容	１ ネットワーク 支援提供体制の具体的構築に向けた協議会の開催 ・行政、関係機関を含めたネットワーク会議を定期的に開催して、在宅児の実態、問題点を共有する。	－	２ ネットワーク ・主治医病院と学校との連絡会の実施 ・学校に通う児童生徒の主治医のいる病院を中心とする、医療関係機関の連絡会を実施する。	20 人材不足 ・講習会の実施（看護師・看護学生向け等） ・看護学生の実習の受入を行い、特別支援学校の実際を知る機会を作り、福祉や教育の場で働くことの楽しさや必要とされている実態を伝える。	３ 役割分担の整理表の作成 ・ネットワーク図、フローチャート等行政部署間を含めた関係機関の役割分担の整理表を作成し、各機関の役割を明確化する。
（２）29年度の進捗状況について、実績や検討している内容	ネットワーク会議は開催されておらず、目処も立っていない。 小田原小児科医会はほぼ月１回開催されているが、その中では小児在宅医療についての議論がほとんどできていない。これは開業小児科では在宅医療を受けている小児との接点がほとんどなく、関心が湧いてこないことに起因していると思われる。	平成30年2月に小児科医会で小児在宅医療について発表する方向。全ての関係者を対象にする研修会など他の取り組みについては検討中。	主治医との連携が特に必要な生徒１名について、ケース会を実施した。 ○主治医（小田原市立病院）とのケース会 ・６月に主治医に来校していただき、生徒本人、保護者、担任、学校看護師等の関係者とケース会を実施した。 ・生徒の体調や学校で行う医療ケア等について、主治医から意見をいただいた。また、学校で実施できる内容や体制について、主治医と共通理解ができた。	９月以降に、次の実習受入を予定している。 ○関連職種連携実習（国際医療福祉大学看護学科） ・９月に３日実施。実習生は２名。 ○重症心身障害児者看護研修（神奈川県看護協会） ・９月に１日実施。実習生は１名。 ○母子看護実習（小田原看護専門学校） ・10～11月に１日の実習を６回実施。実習生は各回７～８名で、合計45名となる。	医療技術が発達して高度な医療が必要になった子どもが増えている。想定される状況を考えて、社会福祉課、こども支援課、保健センターで話し合う。ゆくゆくは学校教育課が入ることを目指す。H29年度は想定する事例を３課で共通認識ができていれば良い。
（３）取組みを進める中で見えてきた課題	開業小児科としては、小児在宅医療の中で日常的な疾患や予防接種の部分で関わることから始めることが現実的である。その中でより高度な医療への関心も芽生えてくるとと思われる。まずは、小児在宅に関わっている諸機関の実働報告を聞き、興味を持つことから始めるのがよいのではないか。	－	（1）ケース会に関する課題 ①主治医とのケース会は、特に必要なケース（個別配慮や緊急度が高い等）について学校が情報を得るために実施しているが、必要性が少ないと思われるケース（体調やケア状況が安定している等）については実施していない。 ②在宅での医療ケア等の情報（実施状況や体調等）は、保護者以外から情報を得る機会があまりない。	－	１つの課に丸投げにしないことが目標。主担当が保健センター（地区担当制であることから長期で支援しやすい）であったとしても、手帳やサービスなどで関係各課が協働する体制を整えたい。
（４）課題に対する考えうる解決策または関係機関と話し合いたいこと	市立病院で関わっている小児在宅医療を受けている児に関する報告を聞くことができれば考える。（小田原市立病院小児科） 同様に、各関係団体が自ら行っている仕事を発表する機会を定期的に作っていくのがよいのではないかと思われるが、誰が音頭をとるかが問題であり、スピード感のある取り組みが必要となる。	－	（1）ケース会に関する解決策 ①主治医とのケース会の目的を整理し、必要に応じてケース会を実施する。 ・個別のケースに特化するか、多くのケースの情報交換とするのかで、実施回数や参加者等が変わってくる。目的を明確にすることで、有意義なケース会が実施できる。 ・ケース会の目的、実施回数、参加者等について話し合えるとよい。（団体：小田原市立病院等） ②学校と訪問看護ステーションでケース会を実施する。 ・学校と在宅で実施するケアについて、客観的な情報を交換することで、それぞれの支援に活かすことができる。 ・ケース会の目的、実施回数、参加者等について話し合えるとよい。（団体：児童生徒が利用している訪問看護ステーション）	－	想定される高度な医療が必要な子どもの在宅事例が不足について、県の方から提供していただきたい。

平成29年度取組み進捗状況一覧

団体名	真鶴町健康福祉課	小田原市障害福祉課	総合療育相談センター	ほうあんふじ
課題区分	(3)療育、短期入所、放課後デイなどの資源不足	(3)療育、短期入所、放課後デイなどの資源不足	(3)療育、短期入所、放課後デイなどの資源不足	(3)療育、短期入所、放課後デイなどの資源不足 (4) コーディネーターがない
(1)項目・内容	9 療育 個別ケース検討会の実施 ・ケース検討会を通して市町保健師への支援を行う。また、同行訪問等の個別ケース支援を強化し、保健師により療育を含めた育児支援のサポートを行う。 ・小田原保健福祉事務所から町へ業務移管される前の在宅医療を必要とするケースについて振り返る機会をつくる。支援経過や方法について、小田原保健福祉事務所と情報交換し、振り返ったケースの状況、支援に関する情報を所属内で共有する。	7 療育 利用可能な療育の場の調査 ・利用できる療育の場の調査をし、より詳細な受け入れ条件の見える化をする。	① 8 既存事業のアウトリーチ 巡回リハビリテーション等により障害児の療育にかかる関係機関に対し、専門的見地からの技術支援を継続していく。 ② 12 情報共有ツールの作成 重症心身障害児の短期入所の一覧を各市町村で把握する。	7 療育 利用可能な療育の場の調査 11 療育 親の療育意識の向上 15 コーディネート 相談事業所と医療機関間連絡会の実施
(2) 29年度の進捗状況について、実績や検討している内容	・8月に小田原保健福祉事務所の保健師、歯科衛生士と町保健師で、個別ケース検討会を実施した。 ケースの家族背景と課題、これまでの支援過程、今後の支援の方向性などについて情報を共有した。検討会を実施することによって、それぞれの専門的立場での関わりを理解することができ、今後も小田原保健福祉事務所に療育を含めた相談・助言を受けることができる体制がより強化された。	平成29年7月から、医療的ケア提供体制整備事業費助成事業として、放課後等デイサービス事業所が医療的ケアを実施する看護師を配置したときに、その報酬の一部を助成する事業を開始した。選定事業所は1か所である。	① 小田原・足柄下地域巡回リハ：年間7回実施予定。重心訪問：年間2回実施予定。 H29年度実施計画に基づき、実施中。 ② H27年度に作成した短期入所一覧表を基に、医療課実施のメディカルショートステイ実施状況調査と併せて、状況確認を行い、小田原地域の短期入所・レスパイト入院一覧表を作成する。9月中に医療型障害児入所施設に一覧表の修正を投げかける。	7 療育 就学前には、湯河原で1か所・小田原は児童発達支援センターが7月に開所したので3か所が医療行為がある幼児の受け入れが可能。（小田原のつくしんぼ教室は、看護師が不在のため家族が医療行為を行うが利用はできる。）放課後等デイサービスは、2か所。医療行為ができる場所が少ない。 11 療育 保健センターの保健師さん・病院のドクターが療育・保育の必要性を伝えてくれている病院・町もある。関わりのあるお子さんについては、訪問リハや療育の場を紹介している。 15 コーディネート ケースが上がってきたら、連携という形なのでそれ以前に対応ができるような関係ができるといい。
(3) 取組みを進める中で見えてきた課題	・担当者間では情報共有しているが、課及び小田原保健福祉事務所内の専門職の方にもケースについて把握していただき全体で共有できると、ケースに対する理解が深まり、新たな支援案も出てきたので検討会の必要性を改めて感じた。また、下郡地区には療育機関が不足していると感じた。	—	—	医療行為を行うためには、看護師の配置が必要だが、予算面で難しいところもある。また、福祉系の看護師は病院との違いがあり、不安があるのでそのところが改善できるといいと思う。 医療ケアの必要なケースは、命を預かっているという怖さもあるので、安心して預かれるようなことも検討してほしい。 市町で、保健師さんの関わり方が違うので、統一ができないか。 8月に理学療法フェスタが実施され、重心のお子さんを持つ家族の方のお話を伺ったとき、情報が入らないこと、当事者が動かないといけないこと、理学療法士ができることがあるということが確認された。
(4) 課題に対する考えうる解決策または関係機関と話し合いたいこと	・今後、支援する機関が増える場合は、関係機関も含めた検討会を行い、情報を共有していきたい。（「関係機関とのネットワーク構築」に重複する）	—	—	(協力を得たい機関) 各市町村の保健センター 小田原市立病院 東海大学病院 神奈川病院

平成29年度取組み進捗状況一覧

団体名	小田原児童相談所	神奈川県立こども医療センター 退院・在宅医療支援室	神奈川県リハビリテーション事業団
課題区分	(3)療育、短期入所、放課後デイなどの資源不足 (4)コーディネーターがいない	(4) コーディネーターがいない (5)福祉現場での医療従事者や医療的ケア 対応可能な人材不足	(5)福祉現場での医療従事者や医療的ケア対応可 能な人材不足
(1)項目・内容	12 療育 情報共有ツールの作成 ・重症心身障害児の短期入所の一覧を市町村で把握する 16 コーディネート 地域限定相談窓口の設置 ・市町の委託先事業所である、おだわら障がい者総合相談 センター『クローバー』が一時的な相談窓口として集約 する。	—	21 人材不足 事例検討や事例集を持ち寄る検討 会の実施 ・事例検討や事例集などを持ち寄る研修会を企画 する ・既存のケースについて症例報告（小田原地域の ケース）やカンファレンスに参加する。
(2) 29年度の進 捗状況について、 実績や検討してい る内容	12 療育 重症心身障害児居宅訪問指導事業について、上半期に小 田原養護学校やほうあんうみの協力を得て実施した。 16 コーディネート ・重症心身障害児居宅訪問指導事業について、上半期にほ うあんうみの協力を得て実施した。また、個別ケース会議 などでも連携する頻度が高い。 ・精神疾患があるひきこもりがちな母親の相談先として、 クローバーを紹介しつない だ。	・支援者向けに小児の医療ケア実技研修会 を年5回実施 交流会を年1回、小児科医・在宅医・地域連 携カンファレンス年1回、介護職対象医療ケ ア実技研修会を年1回開催中である。 ・コーディネーター養成研修として、福祉 職向けに「医療的ケアを必要とするこども の支援」研修会を2017年12月と2018年1月に 実施予定である。	総合相談室、地域リハ支援センター等が相談窓口 となっている。
(3) 取組みを進 める中で見えてき た課題	・児童相談所で重症心身障害児認定名簿を取りまとめている が、児童相談所で把握している情報よりも、計画支援な どの相談支援事業を担っている事業者や、日頃保護者との つながりの深い学校などのほうが、はるかに詳しく、最新 の家族情報を把握していた。実態として市町村主導で情報 共有ツールを管理していくほうが、実態に即したものとなる のではないかと。 ・総合相談のメリットは大きいと、地域既存の相談支援事 業所が、実績の中で利用者から信頼を得、活動の幅を広げ ている中で、住み分けの問題が課題となっている。また、 インテーク段階でクローバーが把握したとしても、法人本 部との役割分担などからその後の相談の取り扱いはどこで 担っていくのが適当なのかに課題がある。	・支援者向け研修会では、基本的な知識が 学べるように計画しているが、患者の重症 化が目立ってきている為、研修内容の見直 しも必要である。現在では、研修に参加す る職種別に計画してほしい等の要望があ る。現状では、実施は難しく研修内容の充 実に向けた対応が必要である。 ・研修後のアンケートから、医師との連携 が不足している事への悩みに対して、相談 対応は行っている。しかし、医師、在宅医 等との連携をスムーズにできるよう介入が 必要である。	・具体的な相談はあがっていないが、神奈川県リハ 病院は医療機関として退院患者支援や地域からの 問い合わせに対応している ・小児科医にも、関係機関からの問い合わせは少 ないようで、親がハブとなり情報発信や情報提供 を行っていると思われる。
(4) 課題に対す る考えうる解決策 または関係機関と 話し合いたいこと	・重症心身障害児の短期入所事業は市町村で支給決定して いるものもあり、施設入所時の障害児手当等資格喪失 問題などから、今後ますます利用者側は市のサービスを活 用していく可能性が高い。こうした実態の中で、必然的に 最新情報が集まるのは市町村の窓口となり、認定名簿の管 理においては、市町村で把握している情報も一元的に管理 できるシステムにするほうが合理的である。 ・地域の中で、民間社会福祉法人の相談支援事業所が市民 権を得ていく中で、クローバーの役割期待がどこにあるの かを整理してもよい。現状に合った取組みとするには、ワ ンストップ相談を担うコンシェルジュ機能を担うほう合理 的なのではないかと。	—	—